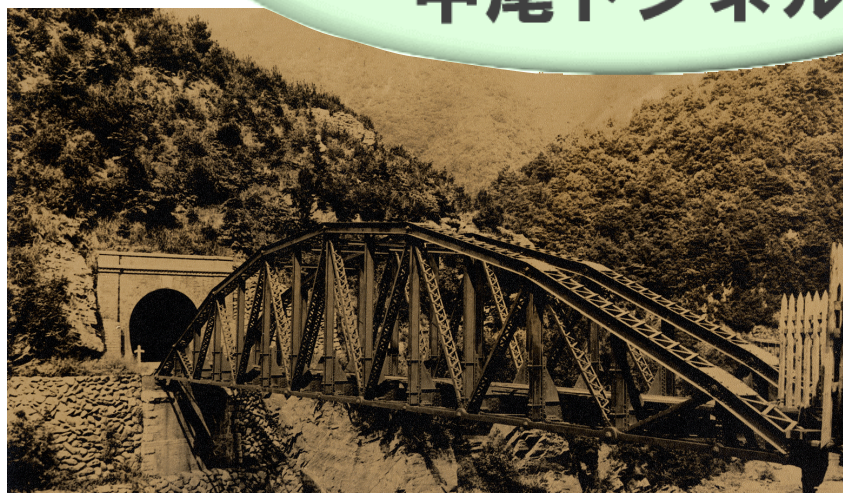




運搬



広瀬幸平

49
まいんうちよけてっきょう
打除鉄橋なかお
中尾トンネル打除鉄橋と中尾トンネル
明治31年(1898)撮影 別子銅山記念館所蔵国宝級の
真紅の輝きうちよけてっきょう
打除鉄橋

は、打除駅近くを流れる足谷川に架かる別子鉱山鉄道下部線(通称:下部鉄道)の鉄橋です。明治26年(1893)に下部鉄道開通に合わせて、架設されました。



現在の様子

この橋は、鉄道関係の設計技師である小川東吾により、鉱山専用鉄橋として設計され、ドイツより輸入、製作されました。鋼材の連結点がピン(鉄の丸棒)を用いて組み立てられていることより、ピントラス橋とも呼ばれます。現在、この種類の橋は国内では六つしか現存が確認されていません。さらに、岸に対して少し斜めにかかっていることから、非常に珍しく学術的にも大変貴重で国宝級とも言われています。



現在の中尾トンネル入口

なかお
中尾トンネル

は、打除鉄橋とともに明治26年、下部鉄道開通に合わせて竣工されたものです。閻魔石がきちんとした閻魔になっています。閻魔石とはトンネル頂部のキーストーン(要石)のことです。倒立した等脚台形の石を閻魔と呼びます。地獄の閻魔大王の額にあるマークから連想されたものらしいです。一般的に閻魔は、工事現場で簡易的に作られることが多いのですが、工場内で丁寧に造られた品であろうと考えられます。

また、その上には、もみじを模した帯状の装飾まで施されています。レンガも長手積み(表面に長手面だけが現れるように積むこと)で、かなりしっかりと積まれています。

かなり力を入れて造られており、当時の技術力の高さと職人の意気込みの強さを感じることができる貴重な産業遺産です。

現在、打除鉄橋、中尾トンネル共に、観光用鉱山鉄道として使用され、マイントピア別子端出場ゾーンの名物の一つです。

打除駅の様子
明治31年撮影 別子銅山記念館所蔵